

エコマーク「アクション・パネル」について

財団法人日本環境協会
エコマーク事務局

エコマーク「アクション・パネル」は平成21年3月18日開催の第22回エコマーク運営委員会で設置が承認された。今までに4回の議論を行い、その内容については今回の運営委員会にて報告することとしている（運営委23-5-2、運営委23-5-3）。

本資料では、アクション・パネルの背景、パネルメンバーの構成、パネルの議論の進め方、全体スケジュール（進捗の実績と今後の予定）について簡単に整理した。

1. アクション・パネルの設置について

1) アクション・パネルの背景(問題意識)

①社会状況の変化

- ▶ 消費者の環境意識の変化（高まり、多様化）
- ▶ 資源や廃棄物以外の環境問題（地球温暖化、化学物質、生物多様性など）
- ▶ 環境ラベルをはじめとした環境情報の氾濫
- ▶ 古紙パルプ配合率の偽装に端を発した環境偽装問題の発覚

②エコマーク20周年（平成21年2月で事業開始後20年が経過）

20年という節目の年に、あらためてエコマークの役割を問い直したい。

- ▶ 制度疲労の危機（制度・組織の耐用年数は、一説に20年といわれている）。
- ▶ 過去に大きな制度変更を実施しているが、常に変革していくことが必要。
（平成21年度は、平成19年度策定の「エコマーク中期活動計画」の折り返しの年である。
周辺状況の大きな変化の下、計画の見直しが必要。）

2) アクション・パネルのミッション

①今後のエコマークの基本的な方針を示す。

- ▶ 時代・社会状況に適応したエコマーク
- ▶ エコマークの新たな価値の創出

3) ポスト「アクション・パネル」（エコマーク事務局の作業）

①エコマーク運営委員会にアクション・パネルの議論の結果を報告

②「今後のエコマークのあり方」の具体化

- ▶ 活動計画の再構築と再構築された活動計画の実行
（必要に応じて中期活動計画の手直し作業。あるいは、年度計画への反映。）
- ▶ 事務局体制の整備

2. アクション・パネルの進め方

1) アクション・パネルのメンバー

パネルメンバーは、有識者委員と事務局委員により構成し、さらに有識者委員は、議論への参加を中心とした「パネラー」、事務局委員がヒヤリングにより意見を聞く「アドバイザー」によって構成されている。

事務局委員はエコマーク事務局長を含めて6名である。エコマーク事務局長以外のメンバーは、事務局内でメンバーを募集し、課を横断するメンバー構成になっている。

表 アクション・パネルのメンバー

(1) 有識者委員（パネラー）[敬称略/50音順]

委員名	所属
中庭 知重	社団法人 産業環境管理協会 環境技術部門 製品環境情報事業センター 製品環境情報国際室 主査
西尾チヅル	筑波大学大学院 ビジネス科学研究科 経営システム科学専攻長 教授
平尾 雅彦	東京大学大学院 工学系研究科 化学システム工学専攻 教授
森下 研	財団法人 地球環境戦略研究機関 エコアクション 21 中央事務局 事務局長

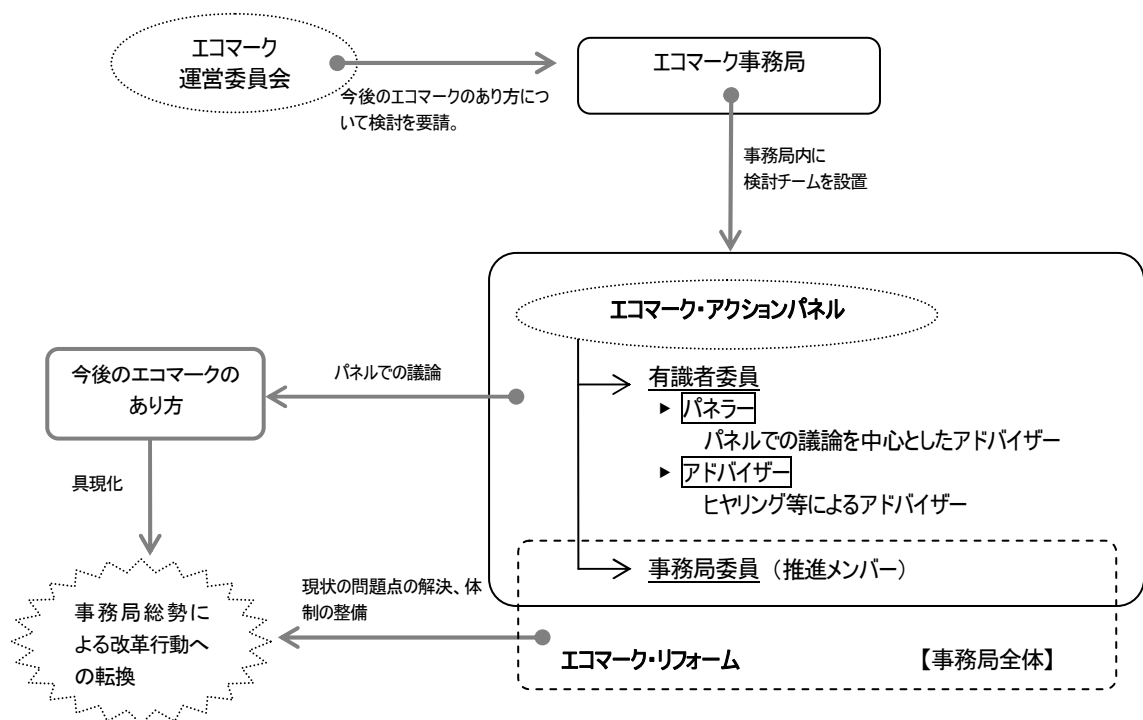
(2) 有識者委員（アドバイザー）[敬称略/50音順]

委員名	所属
青柳みどり	国立環境研究所 社会環境システム研究領域 環境計画室長
植田 和弘	京都大学大学院 経済学研究科 教授
奥 真美	首都大学東京 都市教養学部 都市政策コース 教授
崎田 裕子	フリージャーナリスト <環境カウンセラー>
横田 保生	株式会社 GK グラフィックス 取締役
安川 良介	Eco Communication Factory 工場長 <環境カウンセラー> (元) 株式会社 電通 コーポレート計画局 CSR 室 プロジェクト・マネージャー
和気 洋子	慶応義塾大学 商学部 教授

2) 議論の進め方

パネラー委員と事務局委員により議論を行なった。併行してアドバイザー委員に対して事務局委員がヒヤリングを実施し、パネルの議論の場で事務局委員がヒヤリング結果を報告することでパネラー委員と情報を共有した。

パネラー委員、アドバイザー委員、事務局委員の意見を集約した後は、エコマーク事務局が運営委員会に議論の内容を報告し、その上で再度パネラー委員と事務局委員が議論を行う予定である。しかる後は事務局の責任において“エコマーク・リフォーム”に取り組むこととしている。今回の報告以降の進捗については、次回運営委員会で報告する。



3) アクション・パネルの開催実績と今後の予定

- 第1回 平成21年6月12日
- 第2回 平成21年7月3日
- 第3回 平成21年8月6日
- 第4回 平成21年9月9日
- 第5回 平成21年10月16日 (予定)

議論の流れと進捗状況

